HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	パラタクソノミスト養成講座
Author(s)	持田, 誠
Description	総合博物館へ行こう. 第7回.
Citation	きぼうの虹, 329, 7-6
Issue Date	2010-07-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/47235
Type	article
File Information	mochida kibou329.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

総合博物館へ行こう 第7回

パラタクソノミスト養成講座

総合博物館
資料部研究員　持田　誠



写真1　植物パラタクソノミスト初級講座の様子。学術標本を正しく扱える人材を養成する。

博物館は展示を見に来てもらうだけではなく、各種の講演会や講座など、さまざまな行事も開催している。そのなかで、北大発祥の異色講座としてすっかり定着しているのが、パラタクソノミスト養成講座だ。パラタクソノミストとは「準分類学者」のことで、博物館に収蔵されている学術標本の作製から整理、はては同定までの力を持つ。「分類学者」である研究者とは異なるが、高度な技術で研究者を支える働きが期待されている。こうした人材を要請し、世の中に輩出していくことで、博物館の膨大な標本を整理し、光を当てていこうという試みである。

今年もパラタクソノミスト養成講座のシーズンがやってきた。もともと自然史系が中心だった為、毎年六月頃からが、この講座のシーズンとなる。標本となる昆虫や植物を、野外で実際に採集するところから始める講座が多いからだ。植物パラタクソノミスト養成講座を例に、その内容を見てみよう。

植物パラタクソノミスト養成講座

植物分野のパラタクソノミスト養成講座は、植物初級、中級（イネ科植物）、中級（スゲ属植物、中級（シダ植物））中級（水草）、中級（コケ素植物）がこれまで開講されている。このように、本講座は初級から上級まで、段階に応じた講座が開催されている。原則として、上級講座の受講生は下級講座の修了生が対象だ。各講座を受講すると「修了証」が発行される。



写真2　陸上植物標本庫を見学。標本庫の管理と使い方を学ぶ。

植物初級講座は、初めて学術標本としての植物を扱うような人たちが対象である。まず、植物標本の意義や使われ方が講義され、続いて植物標本庫を見学（写真2）。どのように標本が管理されているかを、実地見学で学ぶ訳だ。

続いて、野外採集（写真3）。植物標本は単なる押し花ではない。学術資料として役立つ為には、標本としてのさまざまな条件がある。こうした知識を得た上で、実際に北大構内で植物採集の仕方を学び、標本の材料とする訳だ。もちろん、採集しながら北大構内の植物観察をする。野外での観察と標本収集は、植物研究の基本だからだ。



写真3　大学構内での野外採集。高枝切り鋏を用いて樹木を採集しているところ。

野外採集から戻ると、いよいよ標本作製だ（写真4）。植物標本は、腊葉（さくよう）と呼ばれる、押し葉標本が一般的である。新聞紙を用いて吸水・乾燥させ、採集情報を詳細に記した「ラベル」を作製する。ラベルは、押し葉が学術標本である為の最低条件だ。どんなに美しく仕上がった押し葉も、ラベルが無くては学術標本たりえず、単なる押し葉で終わってしまう。

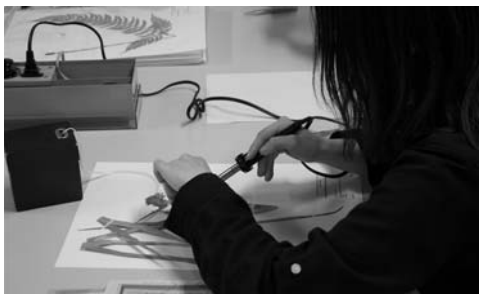

写真4　腊葉を台紙に貼付する実習。ラベル・標本・台紙標本を貼るテープなど、どれにも学術資料として押さえておかなければならないポイントがある。

ラベルを作るために、そして標本を同定するために必要となってくるのが、植物の分類体系や学名などの分類学の知識だ。分類体系とは、全ての植物を類似の植物、近縁の植物によってグループ化し、綱→目→科→属→種→亜種→変種→品種といった階層でまとめて、これを例えば原始的なグループから、より進化したグループへ、といった具合にまとめたものである。

こうした分類学のごく初歩的な部分について解説を受けた後、自分の採集してきた植物を「検索表」を使って「同定」する。「同定」とは、いま自分が見ている生物の名前を決めること。どうやって決めるかというと、「検索表」という同定用の資料と目の前の標本を見比べながら、どの植物に該当するのかを丹念に調べて決める。

フィールド版の写真図鑑などで、なんとなく似ている植物を探すという方法に慣れていると、検索表を使った同定は一見とても大変だ。しかし、正確に植物の名前を調べるには、実はとても細かな作業が必要だ、ということが、この講座を体験するとよくわかるはずである。

また、同定のためには、植物の体について、さまざまな用語を理解する必要がある。検索表にも図鑑にも、こうした専門用語がぎっしり詰まっている。言葉の意味が正しく理解できないと、なかなか同定を進めることはできない。

こうした基礎的な知識を得て、技術を磨いていく（6ページへ）

（7ページより）やがて中級の講座を受けたときに役に立つ。中級講座は、ふつうより同定の難しい植物の仲間、特殊な標本作成法を要する仲間、について開講されている。例えば水草は、採集法から標本作製法まで、陸上植物には無い技術が要求される。花の咲かないシダ植物は、独特の見方が必要だ。一見、どれも似たように見えるイネ科植物やスゲ属植物は、同定するのにコツが必要。コケ植物の同定は、カミソリを使った切片作製から顕微鏡操作まで、何をするにも特殊である。

広がるパラタクソノミスト講座の世界

発足当初、植物や昆虫、岩石・鉱物など、自然史系分野の標本同定を主眼に始まったパラタクソノミスト養成講座。ここ数年、急速に分野が増えている。現在、土器・石器・鉄器・木製品などの考古学分野や、田んぼの生き物調査などの講座も誕生した。これからも、さらに新しい講座が誕生していく可能性がある。講座の開催には、館外にいる多くの講師陣の力が必要だが、先生方の熱心さには毎回頭の下がる思いである。学術標本を正しく取扱い、専門家をサポートするパラタクソノミスト。今月も多くの養成講座が開講されているはずだ。